

伊根町

徹底した話し合いで 各地域に京力農場プランが誕生

「何が出来るか？」
まず着手すべきことは？」

次なる課題は具体的な実践計画

伊根町では、地域農業の将来の方針となる「京力農場プラン」が3月末現在、10地区で策定されている。集落数で見ると、全農業集落24の内、20集落でプランが存在していることになり、府内で最高のカバー率だ(市町村全域で策定している場合を除く)。全国的

プランが策定されているエリアは、集落や旧村、水系、既存の受託組織がカバーする範囲など、それぞれの営農状況を反映し、まちまちだ。

同町でプランの策定が町全体に広がったのは、2015年度。町職員が地域に出向き、プランの意義につ



町内に先がけてプランづくりが進んだ本庄地区での話し合いの一幕。この日は農業委員会委員、集落法人・(株)水農江の役員、地域の担い手が参加

受託組織である「筒川地域農場づくり協議会」の会長や農業委員などを務め、複数のプランづくりの話し合いをリードしてきた一井京一さんは、地域で話し合いが進んだ理由について、近年、目に見えて不作付け地が増加するなど、誰しもが地域農業の存続に対して危機感を強めていたことを指摘する。「このまま戸別でやっていけないことは、誰もが漠然と認識していた。プランをきっかけに、問題意識がはっきりした」と一井さん。受託組織の拡充など、取り組むべき課題がはつきりし、地域でさらに話し合う素地ができたとしている。

プランを策定している地域の今後の課題は、プランを修正しつつ、プランに描かれたことを実践に移していくことだ。

このため、町では現在、農業委員会の遊休農地調査の結果を踏まえ、農家アンケートの実施を検討している。一戸一戸の農家の営農意向を明らかにして、それぞれの地域で取り組むべき課題について、より具体的にしていきたい考えだ。

プランづくりはプランそのものが成果物ではない。同町の事例は、プランづくりをきっかけに、住民が話し合いを通して地域で取り組むべき課題を明確にし、出来ることから主体的に実践していくという本来のあり方を示しているといえる。



茶摘みに励む女性委員(右から植和田英子委員、梅垣貞子委員、辻とよ子委員)

女性委員が舞鶴市舞鶴茶生産組合が4月29日、英子委員の茶畑生産者と摘み子む(総勢160人)しました。

この日収穫した「かぶせ茶」は、全国の茶葉、全国茶品年まで産地賞を賞しました。寒れた茶畑では、摘みた方も「芯み方を教わってました。」「腰がど、青々とした

21年目の挑戦

宮津市北部、山間部にある田原地区(21戸50人)では、特産品づくりや草刈りなど地域活性化に向けた取り組みを、京都生活協同組合の協力を得て、スタートした。

きっかけは、高齢化で耕作の継続が難しい農地が出てくるなど、地域の将来について住民の間で危機感が出てきたことだ。

20年前から地域おこしイベント「田原はなまる」を続けてきた同地区では、地域の課題を住民で協議する体制が整っていたことから、「地域の今後」について十分話し合うことができた。

地区外からの協力で 将来の展望を拓く

宮津市田原地区



京都生協の援農隊と住民と一緒に草刈りで汗を流した

始まった。

手始めに職員有志による援農隊の協力で地域内の草刈りが行われたほか、6月のほたるまつりには、京都生協のブースが出店されることに。また、地域で栽培されている「田原そば」を地域の特産としていくこととし、種まきや収穫などの作業には、援農隊や生協組合員によるボランティアを受け入れる。将来的には商品化、販路の拡大など京都生協の協力を得ることも検討されている。

地区活動をリードする中村栄一さんは、「みんなが何とかしようとする気持ちで知恵を出し合えば方策は見い出せる。何もせず後悔したくない」と話す。

京都

京都府支局
京都府農業会議

京都市上京区出水通油小路東人丁子風呂町104-2
府庁西別館内
075-441-3660

府農業会議 行事予定

開催日時	行事名称
5月30日 13時00分	全国農業委員会会長大会
6月20日 12時15分	京都府農業会議第119
6月20日 13時45分	農業委員会会長研修会
6月26日 15時00分	京都府農業法人経営者会
7月10日 14時00分	経営力向上セミナー・六農の雇用事業雇用管理

農deきらきら



栽培するネギは生産仲間と名前をブランド化に努める

八幡市 畑中 耕治さん

5年前、家の土木建築業のために八幡市にUターンした畑中耕治さん(27)が興味を持ったのは、多くの若者が生産に励む同市の農業だ。家は兼業農家だが、水稲、ケノコ栽培が主で、野菜はノウナギツバなかつたため、元々の先進農家のもとで1年ちり研修。研修後、両親き込んで本格的に農業経営を始めた。現在、ネギを約1

会社員から八幡市ブラ

道の駅 お茶の京都みなみやましろ 1周年記念イベントを
昨年4月にオープンした道の駅「お茶の京都みなみやましろ村」が、1周年を迎えた。来場者数は40万人を超え、売上額も3億9千万円と当初の目標を大きく上回るなど、幸先の良いスタートを切っている。

4月15日、1周年を記念して大感謝祭が開かれた。木津高校のブラスバンド演奏や村在住アーティスト「スエル」のライブ演奏が会場を盛り上げた。お茶の実演販売もみ茶の実演販売もみ茶や茶畑、餅まきや茶畑、民と観光客でにぎわった。お茶のシーズ村産の新茶をたたき濃厚な抹茶スイーツ目見えするなど、突入し、今後ますます山城村の魅力あふ品が充実して、(南山城村農